

# 第3次三重の健康づくり基本計画の評価指標 の状況について

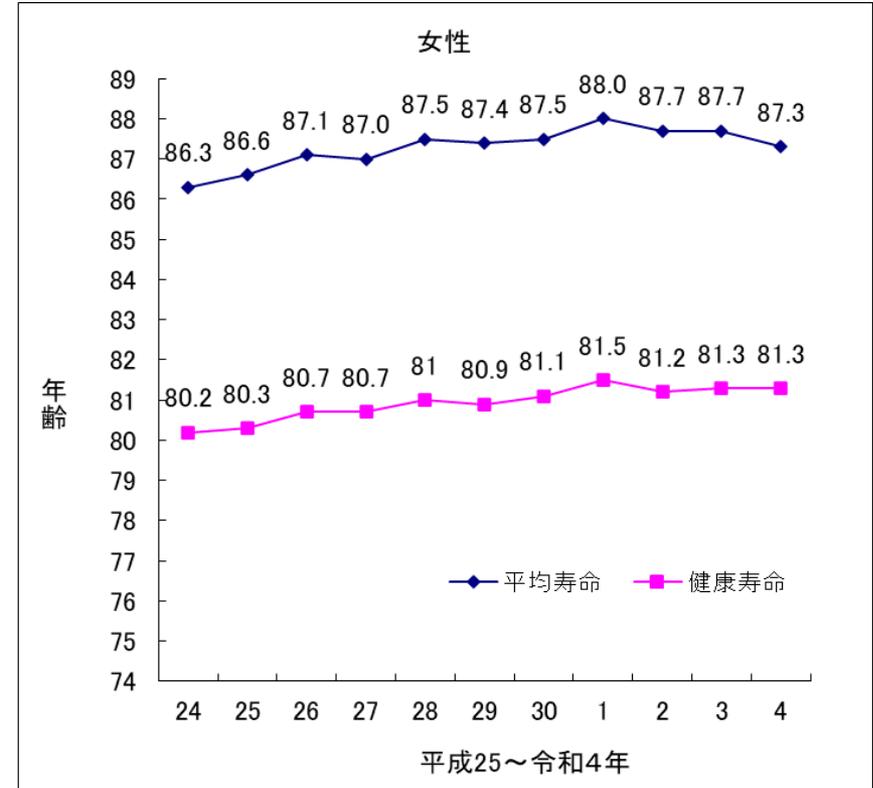
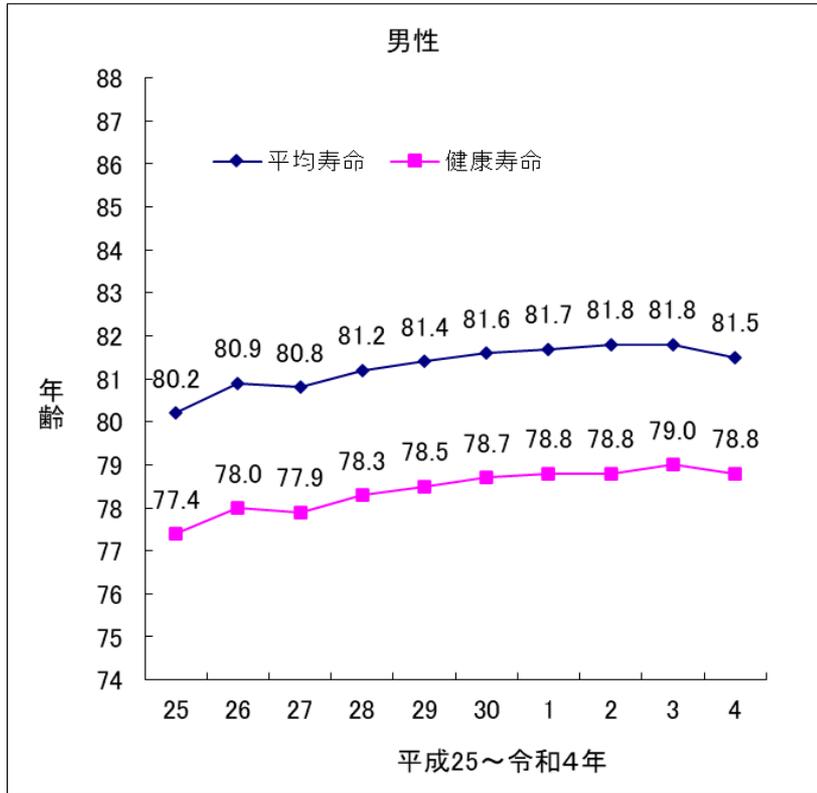


三重県応援  
キャラクター  
兔の助  
(うさのすけ)

©PSP/T-e

# 1 「全体目標」にかかる指標の状況①

## 全体目標 健康寿命の延伸(平均寿命の伸びを上回る健康寿命の延伸)



出典：平均寿命 | 三重県「みえData 月別人口調査結果」より算出、  
健康寿命 | 三重県「三重県の健康寿命」

令和3年から令和4年にかけて、

- ・男性・女性ともに平均寿命が短縮しました。
- ・女性の健康寿命に変化はないものの、男性の健康寿命は0.2歳短縮しました。

# 1 「全体目標」にかかる指標の状況②

## 全体目標 健康寿命の延伸(平均寿命の伸びを上回る健康寿命の延伸)

### R03

	死亡数	人口	死亡率 (/10万)
男・総数	11,041	857,062	1,288
～64	1,098	606,254	181
65～74	1,900	119,217	1,594
75～79	1,448	44,496	3,254
80～84	2,012	34,219	5,880
85～	4,583	30,794	14,883

### R04

死亡数	人口	死亡率 (/10万)	死亡率 (R3比)
11,782	851,345	1,384	107.4%
1,036	601,364	172	95.1%
2,005	114,237	1,755	110.1%
1,627	46,440	3,503	107.7%
2,137	35,451	6,028	102.5%
4,977	31,771	15,665	105.3%

	死亡数	人口	死亡率 (/10万)
女・総数	10,598	898,353	1,180
～64	553	585,581	94
65～74	888	131,630	675
75～79	817	53,296	1,533
80～84	1,411	46,408	3,040
85～	6,929	63,481	10,915

死亡数	人口	死亡率 (/10万)	死亡率 (R3比)
11,559	891,358	1,297	109.9%
565	578,851	98	103.4%
869	127,064	684	101.4%
826	55,626	1,485	96.9%
1,539	47,394	3,247	106.8%
7,760	64,466	12,037	110.3%

- ・R3とR4の死亡率を比較すると、男性・女性ともに増加しました。
- ・特に男性の65～79歳の死亡率が増加しました。

## 2 「糖尿病」分野にかかる指標の状況①

### No.6 糖尿病の可能性を否定できない人 (ヘモグロビンA1c 6.0%以上6.5%未満の人)の割合

条件		策定時(R3)	現状値(R4)	目標値
40～49歳	男	4.7%	5.6%	4.2%
	女	2.7%	2.9%	2.4%
50～59歳	男	9.7%	9.8%	8.7%
	女	6.6%	7.6%	5.9%
60～69歳	男	13.8%	14.5%	12.4%
	女	12.0%	12.9%	10.8%

・糖尿病の可能性を否定できない人の割合が、男女とも40～60歳代すべての年代で増加しました。

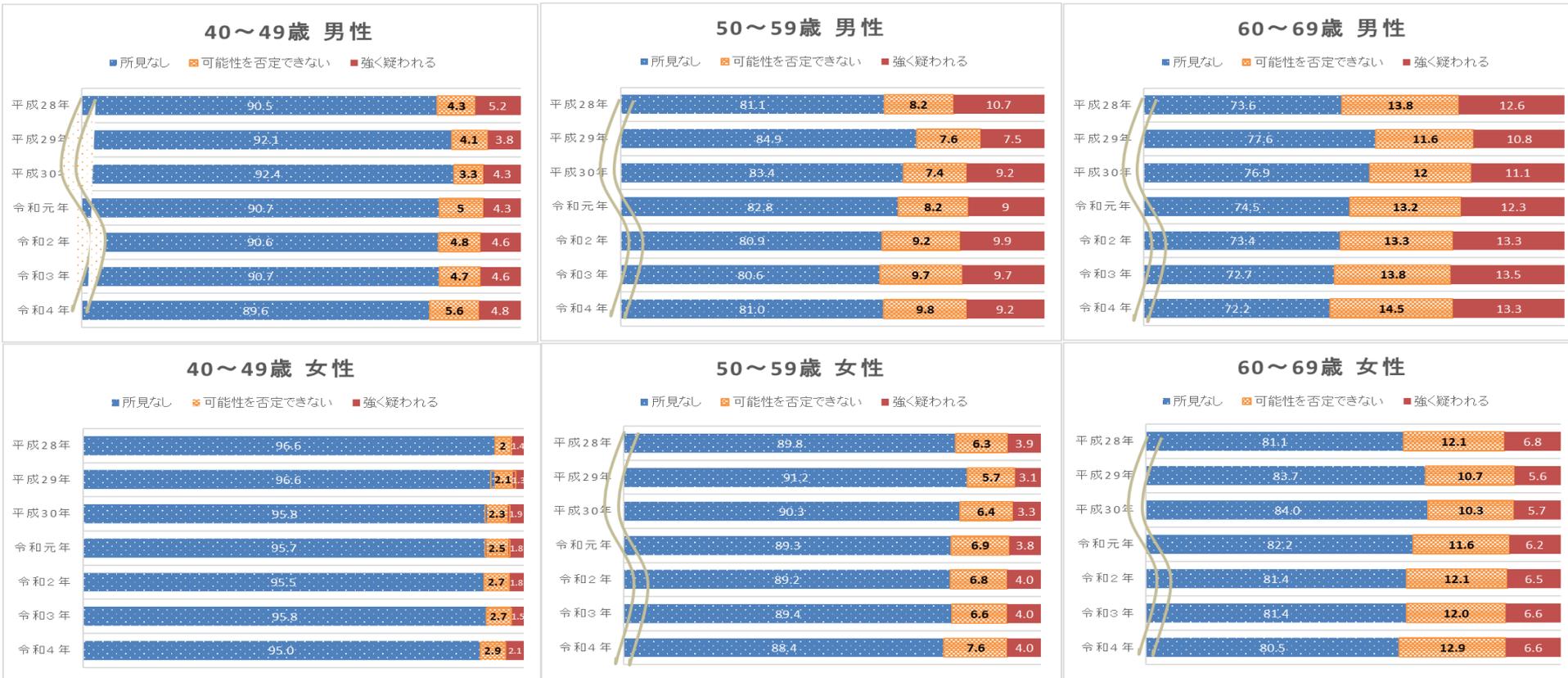
### No.7 糖尿病が強く疑われる人 (ヘモグロビンA1c 6.5%以上の人)の割合

条件		策定時(R3)	現状値(R4)	目標値
40～49歳	女	1.5%	2.1%	1.4%

・糖尿病が強く疑われる人の割合については、40歳代の女性が増加しました。

## 2 「糖尿病」分野にかかる指標の状況②

### No.6 糖尿病の可能性を否定できない人の割合 No.7 糖尿病が強く疑われる人の割合



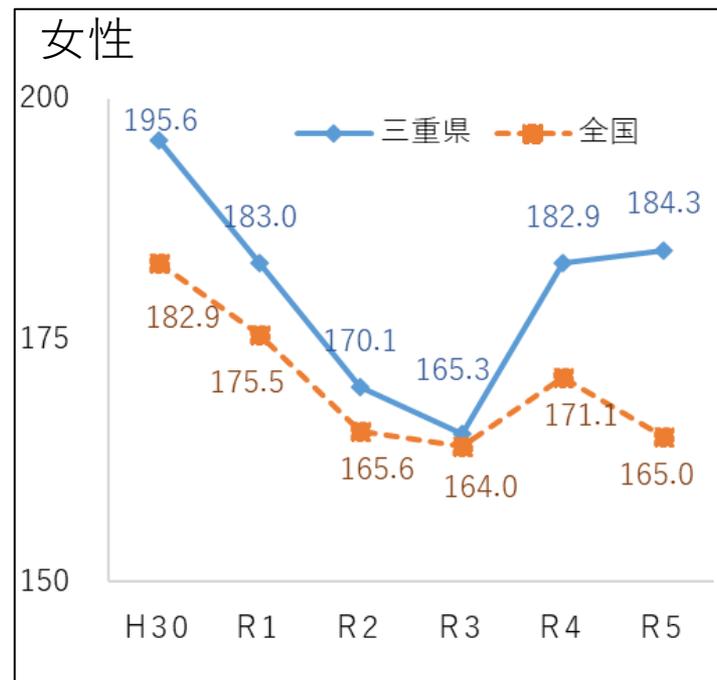
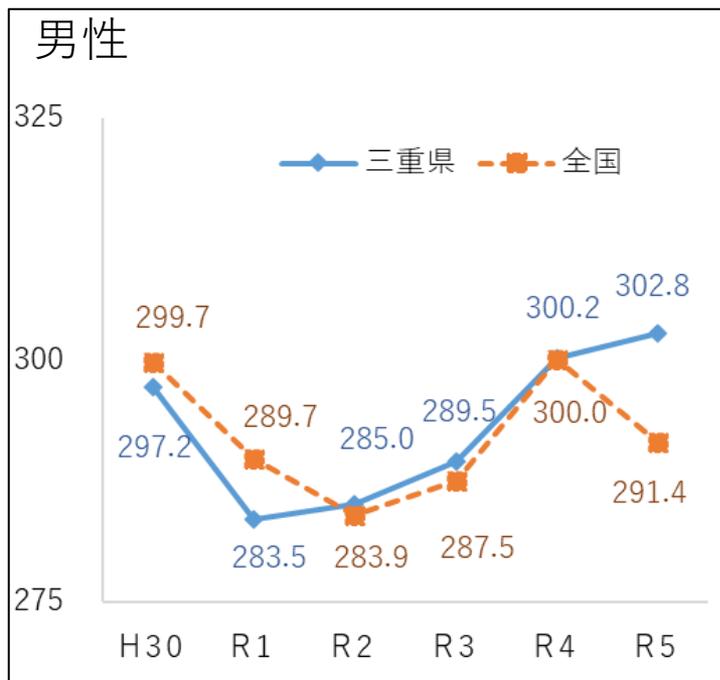
データ出典：三重県国民健康保険団体連合会

所見なし(正常域)の人の割合は、年々減少しています。  
有所見者(糖尿病の可能性を否定できない人と糖尿病が強く疑われる人)の割合が増加傾向にあるため、個々の対象者に応じた支援を行う必要があります。また、受診勧奨により着実に医療機関受診につなげる必要があります。

### 3 「循環器病」分野にかかる指標の状況①

#### No.11 循環器病による年齢調整死亡率(人口10万対)

	策定時 (R4)	現状値(R5)	目標値 (R10)
男性	300.2	302.8	227.0
女性	182.9	184.3	124.0



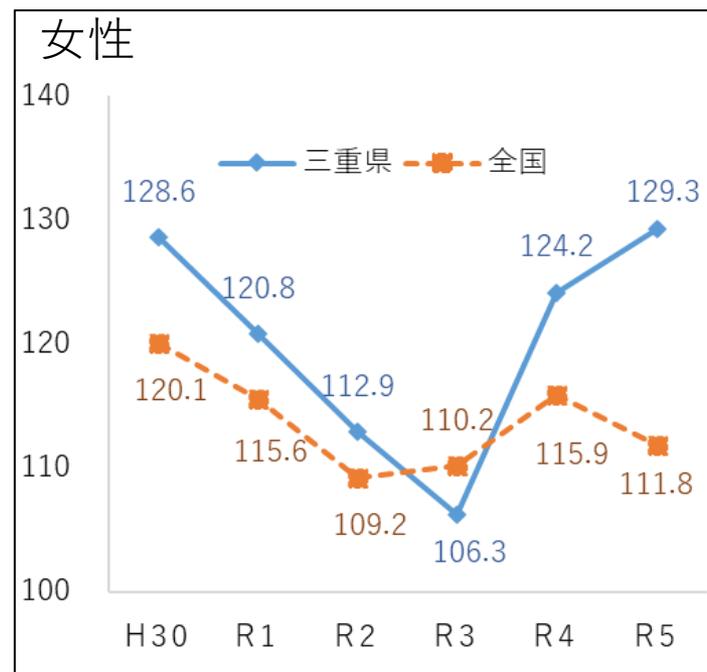
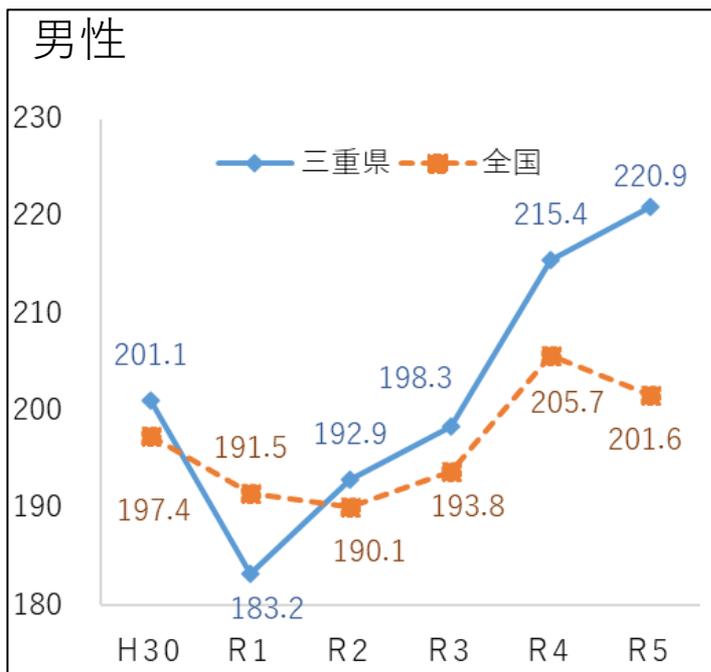
出典：厚生労働省「人口動態調査」、三重県「月別人口」

- ・県内の循環器病による年齢調整死亡率は、コロナ禍以前は減少傾向にありましたが、コロナ禍以降は増加傾向に転じています。
- ・全国の年齢調整死亡率も同様の傾向にありましたが、直近では減少に転じています。

### 3 「循環器病」分野にかかる指標の状況②

#### No.13 心疾患による年齢調整死亡率(人口10万対)

	策定時 (R4)	現状値(R5)	目標値 (R10)
男性	215.4	220.9	167.0
女性	124.2	129.3	90.0



出典：厚生労働省「人口動態調査」、三重県「月別人口」

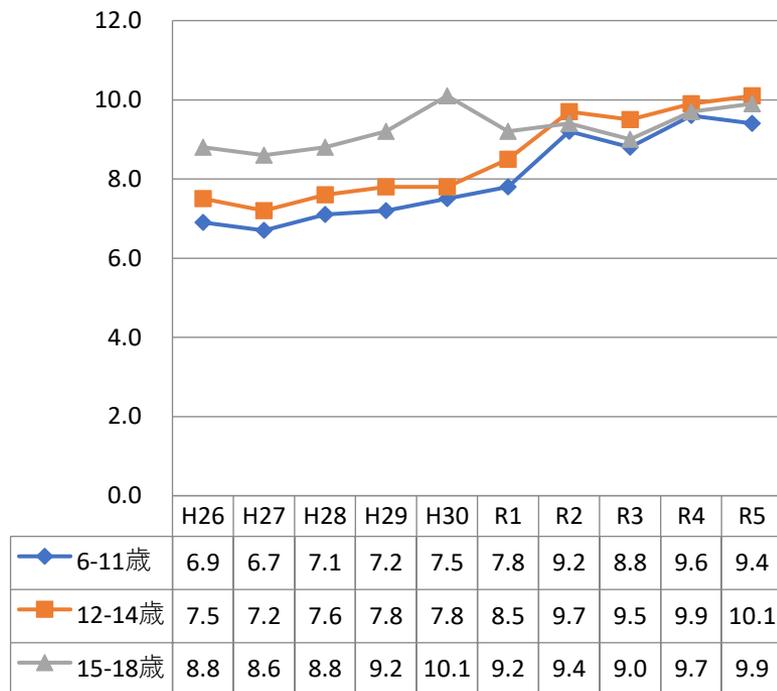
- ・県内の心疾患による年齢調整死亡率は、コロナ禍以降増加傾向にあり、令和5年度も前年比で、男性が5.5ポイント、女性が5.1ポイントそれぞれ上昇しました。
- ・全国の年齢調整死亡率は直近で減少に転じた一方で、三重県は上昇していることから、特に分析・対策が必要な状況です。

## 4 「栄養・食生活」分野にかかる指標の状況①

### No.15 適正体重を維持している人の割合 (肥満度20%以上の子どもの割合)

条件	令和5年度 (R4)	令和6年度 (R5)	目標値
肥満傾向にある子ども (6～11歳)	9.6%	9.4%	5.0%
肥満傾向にある子ども (12～14歳)	9.9%	10.1%	6.0%
肥満傾向にある子ども (15～18歳)	9.7%	9.9%	8.0%

肥満傾向にある子ども



【健康状態調査(三重県教育委員会)】

肥満傾向にある子どもの割合は、15～18歳は横ばいとなっていますが、6～14歳は、やや増加傾向にあります。

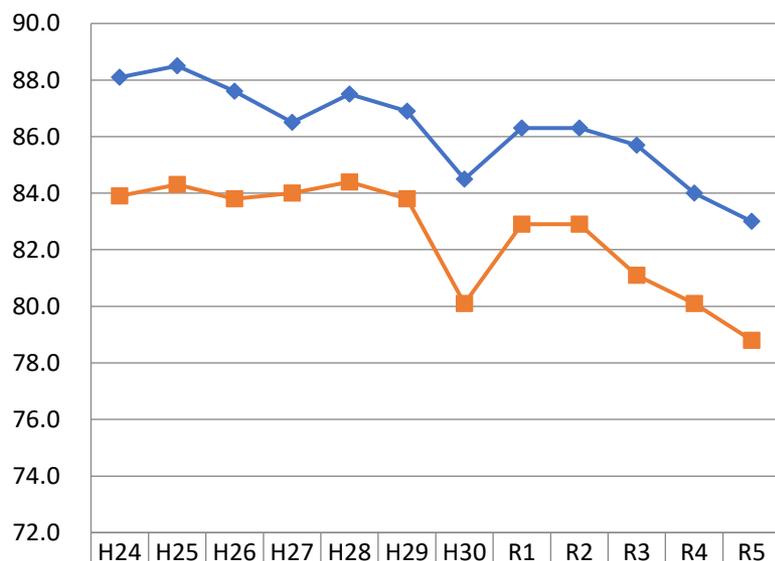
子どもの肥満は食習慣の変化や身体活動量の低下などが原因で、家族の食習慣や運動習慣などの生活習慣の影響を受けます。

このことは将来の肥満、生活習慣病の罹患にもつながるため、県教育委員会では、良好な生活習慣の定着に向けて、子どもが自らの生活習慣を見つめ直す「生活習慣・読書習慣チェックシート」の活用を推進します。また、「みえの地物が一番！朝食メニューコンクール」の実施や、各県立学校および各市町等教育委員会に対して「食に関する指導の全体計画」に基づいた食育を推進するなど、学校、保護者、地域、関連団体等と連携して取り組みます。

## 4 「栄養・食生活」分野にかかる指標の状況②

### No.17 1日3食食べている人の割合 (朝食を食べている子どもの割合)

朝食を食べている子ども



小学6年生	88.1	88.5	87.6	86.5	87.5	86.9	84.5	86.3	86.3	85.7	84.0	83.0
中学3年生	83.9	84.3	83.8	84.0	84.4	83.8	80.1	82.9	82.9	81.1	80.1	78.8

【全国学力・学習状況調査(文部科学省)】

※R2の数値については調査が中止となったため、R1と同じ数値としている

条件	令和5年度 (R4)	令和6年度 (R5)	目標値
小学6年生	84.0%	83.0%	100%
中学3年生	80.1%	78.8%	100%

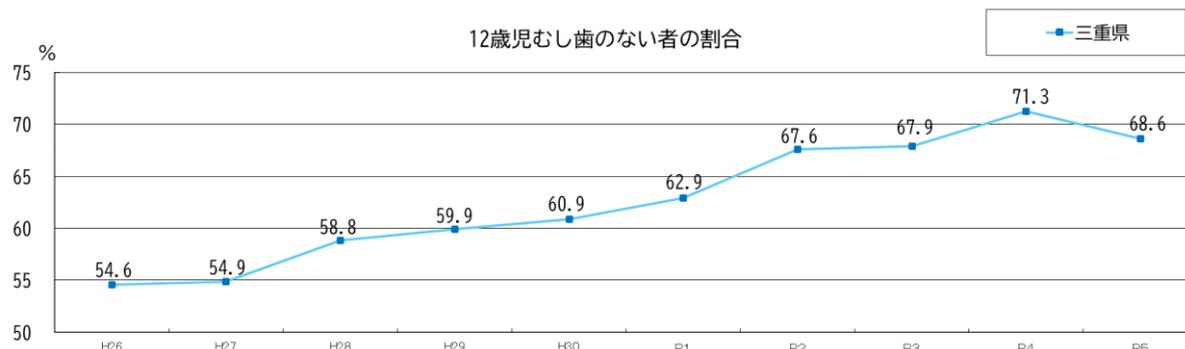
朝食を食べている子どもの割合は、計画策定時から減少傾向にあります。子どもの朝食欠食の理由は、食欲がない、食べる時間がない、朝食が用意されていないことなどがあげられており、生活習慣・食生活の改善に取り組むことが必要です。

県教育委員会では、良好な生活習慣の定着に向けて、子どもが自らの生活習慣を見つめ直す「生活習慣・読書習慣チェックシート」の活用を推進するとともに、朝食のメニューを子ども自身が考え、調理する「みえの地物が一番！朝食メニューコンクール」を実施するなど、朝食をとることの大切さを啓発しています。

## 5 「歯・口腔の健康」分野にかかる指標の状況

### No.28 12歳児でむし歯のない人の割合

策定時 (R4)	現状値 (R5)	目標値
71.3%	68.6%	84.7%



【学校健康状態調査（三重県教育委員会）】

12歳児でむし歯の無い人の割合は、経年的に見ると増加傾向にありますが、令和5年度は減少しています。

生涯を通して歯と口腔の健康を維持するには、乳幼児期から口腔ケアの習慣や規則正しい生活習慣を身につけることが必要です。

特に生えはじめの永久歯はむし歯になりやすいため、正しい歯みがきの励行、規則正しい食生活（食事・間食の回数や時間）を送ることに加え、フッ化物（フッ化物配合歯みがき剤、フッ化物歯面塗布、フッ化物洗口）を利用したむし歯予防の取組が行われるよう啓発していくことが必要です。

むし歯予防につながる生活習慣、歯科検診や歯科治療を受ける習慣の確立等についての健康教育ができるよう、歯と口腔の健康づくりに関するリーフレットの活用を促進します。

むし歯予防に有効なフッ化物の適切な利用が進むよう、年齢に応じたフッ化物の利用に関する正しい情報を提供します。また、フッ化物洗口の取組を促進するため、関係機関・団体等と連携して専門的助言や技術的支援を行います。